

エプソンのインクジェットプリンターで
「働き方改革」を。



*写真はLX-10050MFです。

オフィスの 歴史を変える一台

WorkForce Enterprise
LX-10050MF / LX-7550MF / LX-6050MF
シリーズ / シリーズ / シリーズ

高速印刷で業務改善

4つの改革

高速性

印刷時間短縮



圧倒的な印刷スピード
で作業効率大幅UP。
1,000枚の印刷も、
わずか10分で完了します。^{※1}

毎分

100^{※1}枚

経済性

印刷物の訴求力向上



フルカラーでも低印刷コスト
だから、印刷物のカラー化が
可能。資料の訴求力向上で、
業務効率UPと作業ミス削減します。

カラー

約1.5^{※2}円
(税別)

モノクロ

約0.4^{※2}円
(税別)

利便性

快適なプリント環境

ビジネスを停滞させない、
大容量インク搭載。
また、大容量給紙で
用紙補給の手間も
軽減します。



大容量インク

印刷可能枚数/各色
約50,000^{※3}枚

大容量給紙

最大
6,050^{※4}枚

環境性

環境負荷低減

インクジェットならではの低消費電力設計。
印刷スピード100枚/分^{※1}という
高生産性を維持しながら、
低消費電力で環境目標に
貢献します。



消費電力

320^{※5}W
以下

※1:LX-10050MFシリーズA4横片面の場合。●測定基準:ISO/IEC24734●測定データおよび測定条件につきましては、エプソンのホームページをご確認ください。※2:LX-10050MFシリーズ、インク・スタンダードプランの場合。ランニングコストの詳細についてはエプソンのホームページをご確認ください。※3:イールド枚数(各色での印刷可能枚数)算定については、国際標準規格であるISO/IEC24711(測定方法)、ISO/IEC24712(測定画像)に準拠し、A4普通紙に片面連続印刷した場合の平均(シアン、マゼンタ、イエロー)インクカートリッジは合成平均値)より算出したシミュレーション値です。初回セットアップに使用したインクカートリッジではなく、2回目以降に装着したインクカートリッジを使用。標準プリンタードライバー使用。また、イールド枚数はお客様の印刷イメージ、印刷原稿、印刷間隔、印刷環境によって変動します。※4:標準十大容量給紙ユニット。※5:LX-10050MFシリーズ、本体のみの最大消費電力値です。

プリンターから始める 脱炭素社会の実現

お使いのレーザープリンターを
エプソンのスマートチャージ <LX>シリーズに変えることで、

CO₂排出量を **47%以上削減!**^{※1}



レーザープリンターから<LX>シリーズに変えて5年間使用することで実現される環境貢献



たった1台かえるだけで

5年間の削減電力量

135.98kwh^{※2}
削減



CO₂量なら

約**63kg**^{※3}

削減電力量で削減できた
CO₂総量は約63kgになります。



杉の木なら

約**7本分**^{※4}

削減電力量は、杉の木
約7本分が年間に吸収
するCO₂に相当します。

環境性能

最大320W^{※5}の低消費電力

印字プロセスに熱を使わないインクジェットプリンターだからできる低消費電力設計。LX-10050MFシリーズなら100枚/分^{※6}という高い生産性と最大320W^{※5}という低消費電力を両立しています。



「TEC値」でもわかる高い環境性能

稼働時だけでなく、待機時を含めたトータルな消費電力量を示す「TEC値」が環境性能の高さを示します。LX-10050MFシリーズで0.57kWh^{※7※8}と圧倒的な高水準を実現しています。



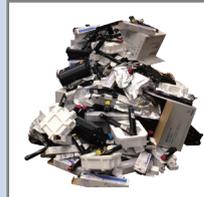
省資源設計で、環境負荷の低減に貢献

レーザープリンターに比べて構造がシンプルで定期交換部品が少ない。さらに、液体インクの使用で粉末状のトナーに比べて同じ原稿をプリントする際に必要なインク体積も小さい。そのうえインクの大容量化により、交換部品など廃棄物の減少にもつながり、環境負荷低減に大きく寄与します。



*エコマーク登録型番はエプソンのホームページでご確認ください。

インクカートリッジ、メンテナンスボックス トナー、感光体、定期交換部品等の廃棄物



*画像はイメージです。

※1: <LX>シリーズのTEC値とENERGY STAR®画像機器基準Version3.0にて定められた60ppm機のTEC基準値と比較した場合の削減比率。※2: 削減電力量の算出方法: ENERGY STAR®画像機器基準Version3.0にて定められた60ppm機のTEC基準値と、同基準の測定方法に基づきエプソンで算出したLX-10050MFのTEC値との差を算出。※3: CO₂排出量は、環境省の「算定・報告・公表制度における算定方法-排出係数一覧」に掲載の算定方法(電気使用量×単位使用量当たりの排出量)を用い、「令和3年提出用」に掲載の係数(代替値0.000470t-CO₂/kWh)を使用し算出。※4: 杉の木のCO₂吸収量は、林野庁の2015年2月公開資料に基づき、杉1本あたり8.8kg-CO₂に換算。※5: 本体のみの最大消費電力値です。※6: LX-10050MFシリーズA4横片面の場合。●測定基準: ISO/IEC24734●測定データおよび測定条件につきましては、エプソンのホームページをご確認ください。※7: オフィスでの使用を想定した1週間の平均電力量。国際エネルギースタープログラムで定められた測定方法による数値。※8: ファクス装着時(計1回線)。

エプソン販売株式会社

(2022年4月12日現在)

製品の詳しい情報は、カタログまたはWebで!

エプソンのホームページ epson.jp

エプソン



!お求め・ご相談は下記まで
入力できます。